

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション				
測定ツール名	GTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ				
主な対象者	中学1年生～高校3年生				
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ
			○		○
測定ツールの目的・概要	実際の言語使用場面を前提とし、英語コミュニケーション能力を測定することを目的としたスコア型4技能検定。授業で学んだ英語を「実際に使う」手ごたえを感じられる日本の中高生に適した出題。自分が登場人物になったつもりで取り組める問題も出題されており、受検そのものが英語を使った生活体験に感じられるように工夫。				
測定ツールの特長・活用例等	<p>◆特長1：技能別の英語力をスコア型の絶対評価で測定 技能別の英語運用力を絶対評価で示すので、英語力の伸びを実感できる。継続的に受検することで、「過去の自分からどれだけ成長したか」を数値で把握できる。スコアは4技能のCEFRレベル別結果を確認することができる。</p> <p>◆特長2：日本の中高生の英語力を測るのに適した問題 授業で学んだ英語を「実際に使う」という手ごたえを感じられる出題。また、背景知識に左右されないため、より正確に生徒の現在の英語力とその伸長がスコアに現れる。</p> <p>◆特長3（及び、活用例）：振り返りに役立つ充実したフィードバック 詳細な教師用帳票とスコアレポート（個人別成績票）により、次の指導・学習のポイントが明確になる。また、生徒一人ひとりに音声付きの付属学習教材「STEP UPノート」を提供。</p> <p>※活用例）長期休暇前にテストを受検し、テスト結果に応じて、休暇中に、「STEP UPノート」で自身の英語力を高めることが可能。</p>				
実施期間、年間実施回数	<p>◆検定としてのGTECは、年3回の実施日を予定。</p> <p>◆アセスメントとしてのGTECは、2019年度の申込開始は2018年12月から、実施開始は2019年4月からを予定しております。どの問題タイプにおいても、問題内容は4月と10月に切り替え予定で、同じ問題タイプでも年に2回受検できる。</p> <p>※上記は、大学入試成績提供システムにおいて、高校3年生時に利用できるGTEC Advancedタイプ・Basicタイプ・Coreタイプ（2020年度～）とは異なる。</p>				
実施方式（CBT/PBT）	「聞くこと」「読むこと」「話すこと」の3技能は紙で、「話すこと」はタブレットで実施。				
試験時間(分)	国語	数学	英語		
			<p>◆Advanced/Basic：合計120分 聞くこと：約25分、読むこと：約45分 話すこと：約25分、書くこと：約25分</p> <p>◆Core：合計102分 聞くこと：約20分、読むこと：約32分 話すこと：約25分、書くこと：約25分</p>		
受検料	<p>・検定としてのGTECを受検する場合（4技能） 9月末日実施分まで（8%税込）：6,270円 10月実施分から（10%税込）：6,380円</p> <p>・アセスメントとしてのGTECを受検する場合（4技能） 9月末日実施分まで（8%税込）：5,600円 10月実施分から（10%税込）：5,700円</p>				
標準返却期間	答案弊社到着後、約1.5～2ヶ月				
URL(事業者のHPIにおける測定ツール紹介)	https://www.benesse-gtec.com/fs/				

指摘事項	出題に関すること	1 件
	結果提供に関すること	1 件
	運営その他に関すること	2 件